

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」というように、あっという間に3ヶ月が過ぎました。能登半島地震も75日が過ぎ、関心が薄れているように感じます。忘れてはいけないことを風化させてはいけませんが、時間という薬が、耐えがたい悲しみや心の痛みを、少しずつ和らげて癒してくれることを、お祈りしています。

### イースターまでの二週間

今朝はレント5主日です。イースターまで二週間となりました。一番暗い夜は、夜明け前の空だと言われるように、復活を祝うまでのこの受難節は、愛する主イエスの傷つき、苦しまれた姿を繰り返し思い起こすことになり、その度に心が震えます。

しかしこの主イエスの姿を受け止めることは、信仰の土台として、実は最も大切なことなのです。この意味が分からなければ、どこか信仰も浮ついたものになってしまいます。人生の試練に遭遇した時、「なぜ、こんな目に合うのか」と怒りや悩みの中に囚われる人もいますが、同じ苦しみを「何のための、出来事か」と受け止め、自らの使命と役割を果たす人もいます。そういう人は、必ず祝福をも受け取るのです。

イエス様の従順と忍耐を知ることが、私たちにとって救いをもたらす道なのです。

### 罪と真実

イエス様が、敵対する人々の手に引き渡されて、不当な裁判と申し立ての中で、ついに死刑の判決がくだされます。どう考えても、許されることはありません。しかし、これが人間の世界の破れでもあるのです。宗教家が、政治家が、民衆が、弟子たちでさえ、妬みと憎しみの刃から、真実を救うことはできませんでした。そして、イエスが死亡した時、祭司長たちは身の潔白が神から証明されたと思ったでしょう。けれど、心が晴々とするはずはありません。神はイエスを裁き、死んだのですから。

しかし、同じ事柄を、イエス様の心からみる時、もう一つの視界が開けます。人が断罪した神の子は、それでも罪はなかった、という真実です。仁義（愛と正義）の踏みじられた世の中で、イエス様は、愛と正義を証明されたのです。

仁義なき世界で、イエス様ですら、報われることの無かった姿は、私たちが、もし愛することを選び、義の道を歩んでも、思うような答えが与えられない時に、イエス様が、すぐそばで励ましてくださるということなのです。あなたは、間違っていないよ、と力強く優しい声が聞こえるなら、何という慈しみ深い救いでしょう。

イエス様がこの世界に来られたのは、私たちの救い主として、罪と死の苦しみから自由にされる道を示すためでした。でもそれは勧善懲悪では無いのです。愛と正義は、人間の、裁きも知恵も生命さえ、超えています。私たちは誰も、完全な人間ではありませんが、イエス様の姿が、私たちを救いの道に、引きあげてくださるのです。